

跡見学園中学校

算数

【一般入試第1回・第2回、特待入試第4回】

<出題の傾向>

- 1 計算問題…4問
 - 2 一行問題…6問
 - 3・4・5 大問…(1)(2)×3題
- 量、難度ともに例年同様です。

【特待入試第1回・第2回】

<出題の傾向>

- 1 計算問題…4問
 - 2 一行問題…8問
 - 3・4 大問…(1)(2)(3)×2題
- 一般入試よりもやや難度の高い問題を出題します。

受験生全体の平均と、合格者の平均で最も差がつくのは算数です。正確な計算力、文章題の意味を理解し、適切な解答を導き出す力、図やグラフを使って自分の考えを整理する力を身につけておきましょう。合格を勝ち取るためのポイントは、毎日の計算練習や、一行問題でよく出るパターンの問題を繰り返し練習すること。苦手分野の復習も大切です。また、大問の後半まで粘って得点を伸ばしましょう（白紙の答案にしない）。過去問を解くことでペース配分を把握し、落ち着いて見直す時間も必ず取りましょう。特待入試第1回・第2回を受験する場合は、過去問を参考にし、標準以上の難度の演習も積んでおいてください。なお、同じパターン、同じ分野の出題が続くので、複数回受験は有利になります。

国語

【一般入試第1回・第2回、特待入試第4回】

小説や説明文を用いた長文問題、敬語などの基本的な文法やことばに関する知識、ことわざや四字熟語に関する知識、筆順・部首などの漢字の知識と漢字の読み書きを出題します。基本的な読解力、表現力を問う問題です。

本番では時間配分を考え、できるところから解いていきましょう。何が問われているのか問題を正しく読み取り、漢字は気をつけてていねいに書きましょう。また、抜き出しの問題では誤字脱字があれば減点になるので注意してください。記述問題には部分点があるので、最後まであきらめず、よく考えて解答を書きましょう。

受験に向けた学習のポイントは、漢字の練習では漢字の持つ意味、熟語の意味に気をつけて、知識を身につけておきましょう。過去問題を時間内に解くことで長文に慣れ、文章の流れをつかめるようにしておくことも大切です。また、文章から読み取ったことを書き表す力もつけておきましょう。

【特待入試第1回・第2回】

説明的文章2題、漢字、言語事項を出題します。文章問題では50～60字程度の記述問題を出題し、読み取ったことをまとめる力を問います。漢字の同訓異字・同音異字にふだんから注意するようにしましょう。また、本や新聞を通じて、さまざまなジャンルの文章に触れておいてください。

理科

物理（力学・電気・熱）、化学（物質の状態・構成・変化）、生物（動物・植物）、地学（気象・天体・地質）の各分野から均等に出題します。最初に一問一答形式の小問があり、基本的問題を中心に据えます。問題集の「基本問題」を全分野まんべんなく解けるようにしておくことが大切です。なお、2014年度入試から出題傾向は同じです。

社会

基本問題を中心に、それぞれの分野（地理・歴史・公民）からバランス良く出題します。過去問を確認し、例年の出題傾向を参考にしてください。問題を注意深く読み、誤りのないように解答することが大切です。漢字指定の用語は、漢字で書くこと。基礎・基本（時事問題を含めて）を徹底的に勉強し、過去問をよく解いておきましょう。各分野の出題傾向は下記のとおりです。

【地理分野】日本の都道府県や地形、気候などの自然地理の知識。政治・経済・文化などの分野でニュースに頻りに登場する国に関する知識。日本とつながりの深い国に関する知識。外国の都市の雨温図。

【歴史分野】重要な歴史上の出来事や人物名などの知識。出来事の背景や影響を相互に関連づけて考える能力。

【公民分野】日本国憲法や国の政治の仕組み、国際社会などの知識。

これらを基礎に、さらには時事問題も出題することがあるので、日ごろから日本や世界の出来事に興味・関心を持ちましょう。

社会・理科共通の留意点【一般入試第1回・第2回、特待入試第4回】

理科と社会のテストは、同時に計50分、各50点満点で実施します。どちらから解答しても構いません。時間配分は自由です。

江戸川女子中学校

算数

大問は4題で、小問は全部で20問前後となっています。四則計算問題から始まり、約数と倍数、演算記号、集合、割合（濃度、損益など）、速さと時間と道のり、場合の数、相当算、時間算、日暦算、図形の面積・体積など、さまざまな内容です。また、論理的に考える能力があるかどうかを見るために、数の範囲と規則性、演算記号の応用、面積・体積の変化や行程など2量関係の問題（グラフもある）、図形の移動なども出題しています。基本問題をいかに取りこぼさないようにするかが合格への近道です。

国語

大問のうち2題は文章読解問題です。読み取りに関するものを軸として、要旨、段落、適語適文選択、文脈整序、語句や表現の文中での意味の説明、ことばのきまり、漢字、慣用表現といったような幅広い設問を出題しています。一度読んだだけで的確に文章の内容を把握する努力を日ごろから続けることが必要です。

理科

大問は4題で、4分野より各1題出題しています。どの分野についても、身近な現象と関連づけて理解する力を問う問題を取り上げています。基礎的な現象や法則を理解したうえで、さらに科学的な判断力が養えるように、項目ごとに関連した問題を解くようにするとよいでしょう。

社会

大問は4題です。歴史は、日本の歴史の大きな流れとその時代に起きた重要な出来事から出題しているので、各時代の基本的な事項をつかんでおく必要があります。地理は、日本地図を中心に日本各地の特色について出題しているので、日ごろから地図に親しんでおきましょう。また、公民はその年に起きた時事問題を中心に出版しているため、新聞・ニュースに接しておく必要があります。

鷗友学園女子中学校

算数

解答用紙に考え方や途中式を書いてもらいます。考え方の筋道を整理して書く練習をしましょう。比や割合を用いる問題を必ず出題します。文章題だけでなく、図形の問題にも比を使いますから、よく勉強しておきましょう。後半の問題にも解けるものがあるはずです。時間配分を考えて最後まで取り組みましょう。また、問題文やグラフ・表を正しく読み取り、分析しましょう。2019 年度入試でも計算問題を大問①に出題します。(1) は四則混合計算、(2) はやや応用的な問題です。

国語

文学的文章の読解、説明的文章の読解、漢字の読み書きの 3 題です。全体の文章量は 8000 字前後です。物語文では登場人物の心情や主題の理解を求める出題を、説明文では筆者の論理の筋道をきちんと追い、文章の構造と筆者の主張を正しく読み取ることを求める出題をします。部分的な内容や基本的な語句の意味も含めた設問です。解答する際は、正しい書きことばを使いましょう。漢字は 5 問出題します。基本的な「とめ・はね・はらい」を意識してきちんと書きましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランス良く出題します。基本的な知識だけでなく、その場で考えて解く力を見る問題を重視しています。難度や問題の量は前年度と大きく変わりません。実験データを考察するような問題では、問題文をしっかりと読み、実験結果をていねいに整理していくことが大切です。記述式問題や、作図を伴う問題、式を書かせる計算問題では、途中点・部分点を可能なかぎりつけています。過去問研究は非常に有効です。また、計算問題をしっかりと練習しておくと同時に、身近なものにも関心を持ちましょう。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から、例年どおりの配点で出題します。記述・論述問題が多いので、自分なりのことばで用語を説明したり、考えや意見を伝えたりできるようにしておきましょう。資料やデータを読み、考えて解く問題があるので、資料集の図やグラフを丸暗記せず、自分の頭で考えて、つながりを理解しましょう。また、時事問題については、日ごろからニュースになじんでおくことが大切です。知識のネットワークを作りましょう。

大妻中学校

算数

例年、全範囲にわたって偏りのない出題を考えています。正確かつ迅速な計算力がつくように、日ごろから繰り返し練習しておくといよいでしょう。思考力を見るため、全問記述式となっています。採点に当たっては、解く過程も重視するので、途中式の書き方にも注意してください。特殊算については、典型的な問題は必ず解けるようにしておきましょう。また、問題文をよく読み、思い込みで解くことのないように注意してください。

国語

論理的な理解を求める文章と文学的な文章を、バランスを考えて出題します。文章量は多く、豊富な語彙力も必要なので、日ごろから幅広い読書を心がけてください。大人向けの文章も含めて、多くの文章に触れて、考え方や興味を広げておくことが大切です。韻文(詩・俳句・短歌)はほぼ毎年出題しているので、基本的な知識は身につけておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題します。実験・観察を題材とした問題では思考力が問われます。小学校の授業で行われる実験などには積極的に参加しましょう。新聞やニュースの理科学的な話題などにも、ぜひ敏感になってほしいものです。計算問題や記述の問題も必ず出題します。暗記に頼らず、幅広い学習をして入試に臨んでください。

社会

地理は地図帳を使って「どこに何があるか」がわかるように、日ごろから学習しましょう。また、グラフから「なぜこういった現象が起こるのか」を説明できるよう、考え方をまとめておくといよいでしょう。歴史は基本事項だけでなく、史料の読み取り能力を見ることもあります。「各時代のいつごろ、どんなことが起こったか」を、順を追って説明できるように学習を工夫してください。教科書などに出ている資料には注意しましょう。公民は政治の仕組みや憲法など基本的事項が中心ですが、時事問題を出題することもあります。また、すべての分野にわたって、記述式の問題を出すことがあります。基本用語は、漢字で正確に書いていないと正解としません。また、2019年度入試でも、分野を横断する、思考力を問うなどの新傾向の問題を出題する予定です。

大妻多摩中学校

算数

午前入試の試験時間は 50 分で、計算問題 3 問、小問 3 問、大問 4 題という構成です。問題冊子に解答欄があり、途中式や考え方も余白に書き込むようになっています。大問については答えが間違っている場合でも、途中式や考え方が正しければ部分点を与える場合があります。内容については、計算力とともに地道な作業能力を重視した作問を行っており、動点や規則性（数列）、場合の数（数え上げ）、約束記号を使った問題、図形の求積問題（面積や体積を求める問題）をよく出題しています。また、本校特有の分野として、直角三角形の辺の比（3 : 4 : 5）を知らないと解けない問題も出題しています。過去問を解いて出題傾向に慣れるとともに、こつこつとした作業を面倒がらずに着実に学習態度を身につけることが大切です。

午後入試は、試験時間が 50 分で、計算問題 2 問、小問 8 問、大問 3 題という構成です。最終的な解答のみを解答用紙に記入しますが、最後の大問は途中式も記入します（部分点あり）。内容は特殊算などの一般的な入試問題が多く、午前入試よりも難度を高くしています。直角三角形の辺の比（3 : 4 : 5）を知らないと解けない問題は出題しません。典型的な問題を中心に、正解にたどり着けるように学習を積み重ねておいてください。

国語

試験時間は 50 分です。随想・小説などの文学的文章、説明文・論説文よりいずれか 2 題、それに加えて、漢字の書き取り、一般的な語句の知識を問う問題を 100 点満点中 15 点以内に出題します。漢字の書き取りは、新聞記事より出題しています。詩・短歌・俳句などは単独では出題しません。読書の習慣を身につけ、文章をしっかりと読みこなせるようにしましょう。新聞などの時事的な文章にも慣れておくとよいでしょう。午後入試では、午前入試よりやや長めの文章を出すので、問題の難度も多少上がります。

また、2017 年度から各回で 70～100 字程度の記述問題を 1 題出題しています。記述問題では、本文を読解して理由や内容などについて記述するタイプの問題、本文の内容について自分の意見を主張するタイプの問題を出題しています。自分の意見を主張するタイプの問題では、論理立てて自分の考えを主張することが大切です。どちらのタイプの問題なのかをしっかりと見極めて、指定字数の 8 割は記述するように心がけてください。

理科

試験時間は 40 分で、60 点満点です。理科的なものの考え方や観察力などを見ます。実験に関する問題は、実験の結果からどんなことが考えられるかを答えたり、理由をつけて結果を予測したりする問題になる予定です。身の回りの物質や生き物、自然現象に関する問題も出します。日常生活のなかで、常に「なぜなんだろう？」と疑問に思うことを大切にしてください。出題形式としては選択問題のほかに、語句や計算結果などを書く問題や記述問題もあります。物事を分析したり、要点を統合したりする、考える力が必要です。

社会

試験時間は40分で、60点満点です。出題傾向に大きな変更はありません。難度は基本・標準レベルを中心に考えています。地理・歴史・公民のどの分野でも、教科書レベルを中心とした基本的な用語をていねいに学習することが重要でしょう。また、教科書や地図帳などに掲載されているようなグラフ・資料の読み取りを絡めた問題も出題します。与えられたデータをていねいに分析し、考えることを習慣づけておきましょう。地名や人名などの用語は、ていねいに漢字で書けるよう練習しておいてください。毎年、時事問題も出題しています。新聞やテレビなどのニュースにも注目して、関心を持っておきましょう。与えられた条件に沿って、理由や内容などを説明する記述式の問題もあります。基礎・基本の問題を早めに解答し、慌てずに済むように時間を多く残して、じっくり考えながら記述式問題に取り組むとよいでしょう。ここ2～3年分の過去問を解いて、傾向に慣れておくようにしてください。過去問への取り組みが最大の対策となるはずです。得た知識をきちんと「書く」ことができるまで、勉強を完成させられるかどうか大切です。「知っている」から「わかっている（意味を理解する）」に、そして「書く」ことができるレベルに達するために、とにかく反復して勉強しましょう。

学習院女子中等科

算数

計算力、論理的思考力、図形に対する洞察力、数学的直観力と、それらを的確に表現する力を見ます。採点に際しては、途中の考え方や式も重視します。ふだんから、「途中の式や計算を必ず書く」「表や図を用いてわかりやすく表現する」「三角定規・コンパスを用いて図形をていねいに描く」といった習慣をつけておきましょう。正解でなくても、考え方が正しければ加点します。逆に、答えが合っているのに、式や計算が間違っていれば評価しません。

国語

日常生活に根差した国語の力を試すため、比較的長い問題文を読み、文章で答えるという形式をとっています。問題文の流れをつかみ、なぜそのような文章表現をしているのかをよく考え、答えるときは要点を過不足なくまとめることが大切です。「ふだんの生活で、よりふさわしい表現を心がける」「いろいろな文章に接する時間を小まめに取る」「漢字の読み書き、語句の意味などを常に辞典で確かめる」といった基礎学力づくりを最後まで心がけてください。

理科

日常の場に出合った現象について、「何だろう?」「どうしてだろう?」と考えることを望んでいます。小学校の授業をしっかり受けてくることが必要で、それ以上の知識は求めません。与えられた条件から考える問題でも、小学校で習う範囲内でどう考えるかを評価しています。また、説明を求める問題で、「誰が」「何が」といった主語があいまいな解答が近年目立つので、きちんとした文章を書く習慣をつけてください。

社会

例年、基本的な事項を問う問題を多く出題しています。人名・地名・年号を単に暗記するだけでなく、「なぜ?」を常に意識することが大切です。事典や地図帳を開いてみることで疑問が解けることもあります。時事問題もよく出題するので、日ごろからニュースや新聞に親しんでおきましょう。家族で交わす会話はとりわけ深く心に残ります。日常生活そのものが社会の最も効率の良い学習の場です。

吉祥女子中学校

算数

第1回、第2回、第3回とも同じ出題構成で、大問は5題です。①は計算問題と一行問題が7問程度です。②と③ではやや発展的な文章題を、誘導をつけて出題します。各2～3問程度です。④と⑤では条件設定が複雑な問題や、いくつかの事柄を複合的に考える必要がある問題を出題し、応用力を問います。速く正確な計算力と基本的な解法を身につけておくことが重要です。また、一部の設問において、途中式や考え方を書かせる記述問題を出題します。

国語

大問は2題です。漢字は6問程度で、本文から出題することもあれば、独立して出題することもあります。知識を確認するというよりは、確かな読解力や、表現力を問う問題です。出題の主な狙いは、①登場人物の心情を的確に読み取ることができるか。また、場面や文章の要旨についての的確に読み取ることができるか。②理解したことを的確にまとめ、本文の内容を自分の身の周りのことに置き換えて考え、表現できるか。③漢字・熟語の読みと意味を正しく理解し、使うことができるか。④ことばのきまりや使い方を正しく理解しているか。以上の4点です。

理科

「科学現象に関心があるか」「実験結果を整理して表やグラフを作成できるか」「表やグラフから規則性を読み取って分析することができるか」「基本的な計算力が身につけているか」を確認します。物理・化学・生物・地学の4分野からバランス良く出題しています。身近な科学現象を題材に出題することもありますので、新聞やテレビなどで取り上げられる自然科学に関する事柄にも日ごろから興味を持ち、その理由を考えるようにするとよいでしょう。

社会

歴史・地理・公民の各分野から1題ずつの大問3題で構成されており、出題数は歴史と地理の分野がやや多くなっています。出題の中心は基本的知識の定着を問うものですが、それぞれの事象の相互の関連性やその背景についての理解を問う問題、時事問題も出題しています。まずはしっかりと基本的知識を身につけることが大切ですが、地図・グラフなどの資料を常に利用する、ふだんから新聞などでニュースを確認して基礎的知識と関連させる、といった対策も必要です。

共立女子中学校

算数

配点 5 点の小問約 10 問と、配点 10～20 点の大問 3～4 題が出題の目安で、全分野から出題します。定規を使う問題を必ず出題するので、過去問で練習してください。

国語

漢字の読み書き、語句問題、韻文（詩など）、軟らかい文章の読解、硬い文章の読解を出題します。五択式の問題が中心ですが、40 字程度の記述も数問出題しています。

理科

全分野からまんべんなく出題します。基礎的事項の積み重ねを問う問題が中心ですが、実験・観察に関する問題や、計算問題、簡単な作図や記述問題もあります。

社会

全分野から出題し、漢字指定、説明記述、図表の読み取り問題もあります。基礎を大切に、苦手分野をつくらないことが大切です。世界地理や時事問題の対策もしてください。

共立女子第二中学校

算数

小問 10 問程度を含む 20 問の出題で、各問の配点は 5 点です。小問は基礎力を見ることが、大問は応用力を見ることが目的です。形式は変わっても、過去問を確実に学習することが大切であることに変わりはありません。逆算や割合の計算、グラフ問題などをしっかり復習しておきましょう。

国語

大問は 3 題で、論理的文章 (40 点)、文学的文章 (40 点)、ことばに関する問題 (20 点) は、4 回の入試とも共通です。文章読解問題では、記号選択と記述をバランス良く出題します。ことばに関する問題では、漢字の読み (4 点)、書き取り (4 点) は、毎回出題し、それ以外は、類義語・四字熟語・敬語などから毎回 3 種類の問題を出題します。

理科

4 分野から均等に出題します。知識を問う出題に対応するには、分野ごとに整理してまとめておくといでしょう。また、実験・観察などの思考を伴う問題も毎年出題されています。問題文をよく読み、筋道立てて考えることが重要です。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野のバランスを図り、基礎・基本を重視した出題をします。また、地図を使用した問題は必ず出題します。例年出題している「時事問題」は国際的な事象も含めて問うので、日ごろから新聞の国際面なども読んでおくことをお勧めします。

京華女子中学校

算数

四則計算を中心に、小数・分数の計算を確実に解けるようにしましょう。一行問題は6～7問です。比や平均など基本的な問題を多く出題しています。図形やグラフの問題は少し工夫すれば解けるので、最後までよく考えましょう。また、第1回入試では、求め方を説明してもらおう問題もあります。説明には、式、図、文章のどれを使っても構わないので、焦らずに取り組みましょう。

国語

標準的な説明文を中心に出题しています。話の筋道をしっかり理解しましょう。漢字は読みと書き取りを出题していますが、小学校で学習する範囲から出题するので、練習すれば確実に点が取れるでしょう。

理科

小学校で学習する物理・化学・生物・地学の4分野の範囲から出题しています。基本的な学習事項のほかに、実験や観察に関する出题もあるので確認しましょう。解答形式は、選択、記述、計算問題も出题されます。

社会

地理・歴史・政治の各分野から出题します。配点は地理と歴史が各20点、政治が10点です。基本的知識・用語などを問う問題が中心です。また、時事問題についても学習しておきましょう。解答形式は記述と適語の選択がほとんどですが、前年度より各分野で説明する問題も出题されています。日ごろから、用語や事柄を説明する練習をしておきましょう。

適性検査Ⅰ

読解力・思考力・論理力を国語的観点で問う問題です。「読解問題」「意見文作成問題」を出題します。「読解問題」は、文章中の事柄について記述する説明問題です。「意見文作成問題」は、設問条件に従って400字以内で自分の意見を述べる問題です。

適性検査Ⅱ

思考力・論理力をさまざまな教科的観点で問う問題で、記述の出題をメインとしています。記述問題は、冒頭に挙げた三つの力を確認するため、今まで習った知識を適切に活用し、ほかの人が読んでも理解できるような説明を心がければ、高得点に結びつきます。

適性検査Ⅲ

与えられた課題に対して、科学的・数理的な分析を行い、判断・解決する力を見る問題が中心になります。予備知識は、小学校で学習した真数の基礎を理解していれば十分です。問題文をじっくり読み、条件に従って考えていけば、高得点も可能です。

恵泉女学園中学校

算数

計算問題、小問、大問という流れで出題します。小学校の学習内容の範囲内での出題です。A方式の大問は途中式を書く形式で、答えが間違っても途中点を与えています。S方式では、大部分が答えだけを書く問題になりますが、出題傾向はA方式と同じです。パターン化した解法だけでなく、考えて解く力を求めています。

国語

物語文や説明文など、長文を必ず出題します。記述式の問題は、文章の流れを読み取り、答えるときはことばを省略せず、一つひとつの要素をていねいに説明しましょう。部分点も与えています。ただし、誤字があれば減点します。記号で答える問題や抜き出し問題などもあり、さまざまな問い方をします。漢字は小学校で学習した範囲から出題します。S方式はA方式より記述問題が少なめですが、どちらの方式でも問いたい力に変わりはありません。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。基本的な自然現象をしっかり理解していることが大切です。計算、グラフの読み取りを必要とする問題も出題します。

社会

地理・歴史・公民すべての分野から、基本的な問題を中心に出題します。歴史上の事柄の並べ替え問題や地図を使った問題、時事問題も出題します。グラフを読む問題を練習しておくといでしょう。

光塩女子学院中等科

算数

計算問題は例年必ず出題しています。正答率は高いので、ミスをせず確実に正解することが求められます。頻出の図形やグラフの問題は、過去問などで対策しておきましょう。また、じっくり読んで条件を整理し、自分で解きほぐしていく力も必要です。部分点を与えているので、式などをしっかり書く習慣をつけておいてください。

国語

ことばに関する力、読解力、表現力、発想力に重点を置いています。記号選択や空欄補充なども出題しますが、問題文を正確に理解したうえで、自分の体験を織り交ぜて文章にする100字および2行程度の記述を設けています。分量がかなり多いので、短時間で的確に読む訓練が重要です。

理科

基礎的な知識を断片的に知っているかどうかだけでなく、総合的に理解しているかを問います。図やグラフ、表を読み取ること、観察・実験の説明文を理解し、その目的を正しく把握することが大切です。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。単に知識を暗記するのではなく、考える習慣をつけましょう。地名・人名は漢字で答えてください。文章で答える形式の問題も含まれています。

総合型

「初めて目にした問題（文章・図表など）について、今までに学習した小学校レベルの基礎知識を用いて、自分の頭を使って読み解き、きちんと思考して論理的に表現する力」を評価します。「総合型」の国語基礎・算数基礎では、基礎力を測る試験を実施しています。国語基礎では、漢字、ことばの意味、接続詞など基本事項の確認と、平易な文章の読解を中心に出题しています。算数基礎では、計算問題と標準的な文章題を出題しています。

晃華学園中学校

算数

中学入試問題として基本的な問題を、特定の分野に偏らず出題します。図形では、長さ・面積・体積・角度を求める問題や、空間認知の能力を試す問題などを、数量では、規則性、場合の数の問題や、比例といった関数の問題などを出題します。解答は、基本的には答えのみを記入する形式ですが、記述式の問題を出題する場合があります。数値を答える問題で「単位」などが書かれていない場合は、減点対象になることもあります。多くは解答欄に単位が書いてありますが、問題によっては書いていないこともあるので、注意が必要です。

国語

文章問題を 2 題出題します。設問内容は「文章の内容の理解を問う問題」と、「語句の理解を問う問題および漢字の書き取り問題」です。前者では、問題文の主題・要旨の把握、文脈の理解、場面や情景の理解、登場人物の心情の理解を問います。また、後者は、ことばの性質や働きなどを問う問題と、漢字の書き取り問題から成ります。漢字の書き取りは、原則として音訓ともに小学校で学ぶ漢字の範囲とします。なお、設問形式は、いずれも選択肢、書き抜き、記述などです。漢字を答える問題で、「とめ・はね・はらい」の不備・不完全なものは減点対象になります。また、記述問題には部分点を設けていますが、指定字数に大幅に満たない場合は減点対象になります。このほか、抜き出し問題で、誤字・脱字などがある場合も減点対象になります。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。各分野とも、①小学校課程における基礎知識およびその応用力が身につけているか、②実験・観察・観測などから論理的に考察する力があるか、③自然科学に対する興味や、身の回りの自然現象への関心や観察力があるか、の 3 点を重視しています。記述式問題の場合、考え方や作図に部分点を設けています。解答に漢字の間違いがあった場合は、減点対象になります。ただし、たとえば「オリオン座」とカタカナで書くべきところを「おりおん座」と書いても減点しません。「石灰岩」を「せっかい岩」と書いても減点しませんが、「せっ会岩」などと、誤った漢字で書いたら 0 点となります。また、「小数第 1 位まで」と指定されているのに、分数で解答すると減点対象になります。「光合成」「物質」「密度」「圧力」「気圧」など、小学校では本来扱われない用語については、解説を加えると、問題文がかえって複雑になってしまうので、解説を付けずにそのまま問題文に使う可能性があります。配点は 75 点から 50 点、時間は 35 分から 25 分へ変更になります。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。基本的な地名や人名は漢字で書くようにしてください。記述式問題の場合、部分点を設けています。基本的な地名や人名を答える問題で、漢字の間違いや仮名書きは 0 点とします。記述式問題のなかに出てくる基本的な地名

や人名についての漢字の間違いや仮名書きも減点対象となります。配点は75点から50点、時間は35分から25分へ変更になります。

香蘭女学校中等科

算数

計算問題、図形・割合についての問題は必ず出題します。①は、計算力や整理して考える力を試す小問 14 問です。②、③、④は代数・幾何分野の応用問題で、粘り強い思考力を問います。全体の問題数は 2 回とも例年と同じです。

国語

物語的な文章と評論的な文章から各 1 題出題します。文学史などの知識は問いません。意味段落ごとに、筆者の言いたいことや登場人物の心情をまとめながら読む練習をしてください。

理科

4 分野からまんべんなく出題します。基礎的な内容を覚えるだけでなく、教科書や参考書、資料集をよく見ながら、「なぜこうなるのか」と考えながら解きましょう。実験や観察に基づく図やグラフを読み取る練習も大切です。

社会

3 分野からまんべんなく出題します。資料を読み取り、考えをまとめる力が問われます。前年度までの分野ごとの大問 3 題の形式から、融合問題の大問 2 題に変更になります。難度は変わりません。

品川女子学院中等部

算数

〈作問のコンセプト〉

作問については、偏りなく幅広い分野からの出題を心がけています。中学生になってから学ぶ「数学」では、一つのみずきが必ず先のどこかで影響します。すべての分野を好き嫌いなく学んでください。記述式の問題も出題しますが、本校では、入学後もさまざまな場面で自分の意見を伝える能力が要求されます。このため、「自分はこう考えた」ということをわかりやすく相手に伝えられる人に入学してもらいたいと考えています。

〈アドバイス〉

- 小問集合はさまざまな分野から出題します。単位の計算、数の性質、数列、集合と場合の数、約束記号、濃度、面積、過不足算、差集め算、旅人算、通過算、倍数算などです。幅広く勉強し、苦手分野をつくらないようにしましょう。
- 図形は、角度・長さ・面積・体積を求めるものを多く出題することが多く、立体図形の切断、平面図形の回転、展開図、点の移動などと絡めて出題することもあります。
- 記述問題は解き方の流れを示し、ていねいに書いてください。受験生の皆さんが考えた過程を、好意的に読み取りながら採点します。部分点を与えるので、わかる範囲で伝える努力をしてください。

国語

〈作問のコンセプト〉

国語科では、語句や文法に関する知識や読解力といった基礎学力をもとに、より難度の高い文章を理解する力を養いたいと考えています。各学年・各学期にテーマを設けたシラバスがあり、授業では中学1年生のときから、現代社会を題材とした文章をさまざまな切り口から学びます。また、社会に出てから他者とのかかわりにおいて必要とされる力を総合的な国語力ととらえ、言語感覚や文学的感性など、数値には表れない力を伸ばすことも重視した指導を行っていきます。入試においても、社会に目を向け、現代社会で問題となっているテーマに興味を持ち、より良い人間関係を築けるような生徒を期待して文章を選び、作問しています。

〈アドバイス〉

- 例年、文章の長さは、なるべく同じくらいになるようにしていますが、多少長短はあります。
- 物語文では、最近の作家の作品を取り上げます。テーマは、友だち・きょうだい・家族との関係、学校での人間関係などに関するものが中心です。記述問題は、心情や状況を説明するものが多くなっています。
- 説明文のテーマは、現代社会で話題・問題になっているようなこと、自然環境・動植物・コミュニケーション・文明・社会などです。記述問題では、論旨の展開を押さえた説明が求められます。
- 漢字はていねいな字で書きましょう。一般的な中学受験用の問題集で繰り返し練習してください。知識問題の対策は、塾などの中学受験用のテキストで十分です。文学史は出題

していません。

理科

〈作問のコンセプト〉

本校の理科では、科学について学問的に追究しようとする深い思考力を養いたいと考えています。入学後の授業では、実験・観察で科学的な感覚を、レポート作成やグループワークで考察力と伝える力を養うとともに、視聴覚教材などで理科に親しみ、「知る喜び」を味わうことを目標にしています。したがって、理科の入試問題では、このような理学的な興味・関心を持つ姿勢につながることを意識して作問しています。

〈アドバイス〉

- 実験や身近な疑問に関する問題が多く、考察力や思考力を試す問題もあります。
- 計算・記述・作図問題もあります。
- 問題には、図・グラフ・表も使用しています。
- 記述問題で説明する際は、理科の用語を用いてください。記述の漢字間違いは減点します。
- 解答欄に単位が印刷されている場合は、要求された単位にして答えてください。
- 計算問題で差がつくことが多くなっています。

社会

〈作問のコンセプト〉

社会の授業では6年間を通して、正確な知識をもとにして、筋道立てて物事を考える力を養いたいと考えています。具体的には、日本や世界の出来事・文化や、各地域の特徴を積極的に学ぶ姿勢と、問題点を指摘したうえで、みずからの考えを述べる力を養っていきます。したがって、地理では日本の国土の特徴などの基礎知識を持っていることが必要で、歴史ではその時代ごとの出来事に加え、現在に至るまでの大きな流れを認識しておく必要があります。公民分野では、時事問題を基礎知識と関連づけて考える力も求められます。

〈アドバイス〉

- 基本的な知識や理解力が重視されています。
- 問題の形式は記号選択と適語記入が中心で、漢字指定で答える問題もあります。
- 地図・写真・資料・グラフ・地形図・雨温図・統計資料を用いた出題もあります。
- 記述問題が数問あります。
- 構成・傾向・難度は、例年どおりにする方針です。
- 受験参考書や塾のテキストも参考にして作問しています。
- 「間違っているもの」を選ぶ選択問題が例年出題されるので、気をつけてください。
- 用語は正しく書きましょう。漢字指定の問題もあります。
- 時事問題については、用語をずばり問う場合と、そこから発展させて問う場合とがあります。地理・歴史に関連した問題になる場合もあります。
- 記述で説明する問題には、持っている複数の知識を組み合わせる必要がある場合もあります。また、キーワードが必要なことも多くあります。誤字・脱字は減点します。

十文字中学校

算数

出題形式は各回とも共通で、解答のみを書く問題と、解答用紙の一部に「考え方や式」を書く欄を設け、部分点を与える問題とがあります。ほとんどが基本的な問題です。過去問には必ずチャレンジしてください。

国語

大問 1 題ないし 2 題を出題します。文学的文章と説明的文章をバランス良く出題し、内容の読み取り、登場人物の心情の要点や要旨を問う問題が中心です。そのなかで、ことばの意味やことわざ、慣用句などの知識問題も必ず出題します。漢字の読み書きなど基本的な力を見る問題も必ず出題するので、よく練習しておくといでしょう。

理科

実験・観察をもとにした問題が大部分です。細かい知識を単に覚えているかどうかではなく、身近な現象と結びつけてどこまで理解しているか、また、自然体験や学校での実験・観察などをどの程度自分のものになっているか、という観点から出題しています。これまでに得た体験や知識などを組み合わせて考え、まとめて表現する（記述する）訓練を積んでください。「思考力型」も同様です。

社会

地理は、地方（都道府県）ごとに地誌的内容を出題するので、それぞれの地域の特色を理解してください。歴史は教科書を中心に、テーマ史を含めた学習が必要です。人物を中心に各時代を偏りなく学んでください。公民は、教科書だけでなく新聞や参考書も利用して、国会の情勢、周辺諸国との関係、時事問題についても学習しておきましょう。地図、図表、写真などにも目を通しておくと理解が深まります。また、過去問で出題傾向に慣れておきましょう。「思考力型」では、自分の意見を順序立てて書く練習をしておいてください。

英語（得意型）

英検®準 2 級レベルの英語力が問われます。発音・アクセントの問題から適語補充、長文読解、要約の問題まで幅広く出題するので、過去問（本校ホームページに掲載）で練習しておきましょう。

頌栄女子学院中学校

算数

①正確な計算力が身についていること、②速さ、割合、濃度などの考え方が身についていること、③平面図形、立体図形をイメージする力が身についていること、④問題文を的確に読み取る力が身についていること、以上の4点を特に重視した出題を心がけています。問題を各種パターンに分類して、その解法を覚えて解くのではなく、あくまで論理的思考を徹底し、それを相手にわかりやすく説明する力を身につけてほしいと思います。

国語

長文を1題あるいは2題出題します。説明的文章の出題では、正確な文法と厳密な論理に基づいて、筆者の意図を的確に把握する客観的読解力を問います。文学的文章の出題では、それまでの受験生の生活体験に支えられた鑑賞力、ひいては想像力・創造力・表現力などを問うことを主な狙いとしします。漢字の書き取り、ことわざ・慣用句などの語彙力も重視しています。速読・速解の日常的な訓練も必要と思われるます。

理科

4分野から各1題、計4題を出題します。単なる知識ではなく、科学的な思考力・計算力・表現力を問うことを狙いとしします。このうち科学的な思考力とは、与えられたデータや条件をもとに、類推したり、まとめたりしていく力のことです。したがって、表やグラフの取り扱いには十分に慣れておく必要があります。また、記述式の問題も数多く取り入れています。さらには、最近の科学に関するニュースなどにも、日ごろから十分関心を持つように心がけてほしいと思います。

社会

時事問題を切り口とした総合的な問題や、地理・歴史・公民を融合した問題を出題し、各設問では、基本的知識をもとにした思考力や記述力を見ます。また、図表や資料などから必要な情報を読み取る能力を特に重視します。基本的な地名・人名や、その他の社会科用語については、必ず正しい漢字を使って書くよう、日ごろから心がけてください。

昭和女子大学附属昭和中学校

算数

例年と同じ形式・傾向で、計算問題、一行問題、特殊算、図形問題を出題します。計算問題は、基本的な四則計算や逆算が中心です。一行問題と特殊算では、比を使う計算や、濃度、速さ、規則性などに関する問題を幅広く出題します。図形問題では、角度・面積・体積を求める問題を出題します。円周率は3.14を使います。解答用紙のスペースを広く取っているため、考えた過程が書いてあれば、途中点を与えます。

国語

例年と同じ形式・傾向で、長文読解と漢字・慣用表現などを出題します。長文読解は、説明文と物語文または随筆文から2題出題します。文章を正確に読み取り、どのような内容が書かれているかを問います。また、自分の考えや感想を100字程度で書く問題も出題します。辞書の引き方や漢字・慣用句なども出題します。

理科

例年と同じ形式・傾向で、「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野からバランス良く出題します。大問は5題で、各分野からの問題と総合問題で構成されています。

社会

例年と同じ形式・傾向で、地理・歴史・公民の3分野からバランス良く出題します。基礎的な知識を問う問題、文章や図表を読み取る力を見る問題のほか、環境問題や今日的な時事問題などがあります。

女子聖学院中学校

算数

試験時間は 50 分です。問題の構成は大問 5 題。配点は 100 点で、大問①は計算問題（独立した小問 8 問、配点 30 点）、大問②は一行問題（独立した小問 8 問、配点 32 点）、大問③は文章題（関連した小問 3 問、配点 12 点）、大問④・⑤は文章題（関連した小問 3 問程度、配点は 12 点または 14 点。「式や考え方」を書かせる問題があるほうが 14 点）となっています。大問①・②だけで配点が 62 点あるため、しっかり検算をして、確実に得点しましょう。また、大問③・④・⑤は、つるかめ算などの典型的問題、図形問題、時間に伴って変化する量を追う問題、推理など応用問題です。それぞれの小問 1 は、どれも確実に解ける問題なので、必ず解答しましょう。「円周率を 3.142 とします」などの特別な指示に気をつけてください。大問④または⑤で、最後に「式や考え方」を書かせる問題があります。この問題では、途中までの考え方が合っていれば部分点があります。

国語

試験時間は 50 分です。問題の構成は大問 3 題。配点は 100 点で、大問 (1) は知識問題（小問 30 問、配点 30 点）で、漢字、ことば、文法に関する問題です。漢字の読み書き、四字熟語、ことわざ、慣用句、対義語など知識の問題、呼応することば、ことばの見分け、修飾・被修飾など、問題集を繰り返し学習した人が点数を取れるようにした問題です。次の大問 (2) は小説文（小問 17～18 問、配点 35 点目安）で、女子聖学院オリジナルの小説が使われることがあります。出版された作品から出題する場合は、第二次世界大戦後に発表されたものが出題されます。せりふの並べ替え問題、文章全体からの○×問題、抜き出しの問題は例年出題しています。文学史や詩・短歌・俳句など、韻文の問題は出題しません。そして、大問 (3) は論説文（小問 17～18 問、配点 35 点目安）です。ここでは、「書かれていることを正確に読み取ること」を求めます。問題の傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体をていねいに読む訓練をしましょう。

理科

試験時間は理科・社会合わせて 60 分です。問題の構成と配点は物理・化学・生物・地学の各分野からの大問 4 問、それぞれ 12～13 点です。生物分野では重要な用語を答える知識問題が頻出ですので、用語は漢字で書けるようにしてください。実験に関する考察問題も準備が必要です。地学分野は、「土地のつくりと流水のはたらき」「天気の変化」「四季の星座と星の動き」「岩石の名称と分類」についての知識問題が中心です。物理分野は、「てこ・ばね・滑車・輪軸などを使った力学の問題」から、計算問題など、考え方を問う問題を中心に出题します。化学分野は、「水溶液の性質・気体の性質」「物質の変化」「ものの溶け方」から、「基本的な知識を問う問題」と「計算問題」を組み合わせて出題します。なお、説明会などにおいて、出題に関するより具体的な情報をお知らせしています。

社会

試験時間は理科・社会合わせて 60 分です。問題の構成は大問 4 題または 5 題で、配点は

50点です。大問①・②は地理（配点20点）、大問③・④は歴史（配点20点）、大問⑤が公民（配点10点）となっています。大問①は都道府県名とその位置をききます。漢字で書けるようにしましょう。正答率70%なので、確実に得点できるようにしましょう。大問②は気候・地形・産業、または世界の国々についてききます。本校が指定する世界の国々30か国の国名と位置は、必ず確認しておきましょう。次の大問③は、歴史に関する文章に基づく設問です。古代から近現代まで広い範囲から出題しますが、設問は基本的なもので、小学校の学習レベルを逸脱しません。時代名・人物名は漢字で書くのが原則です。大問④は、大問③が小問10問の場合に出題します。時代名、歴史上の主要人物と主な業績を覚えましょう。そして、大問⑤では、憲法三原則（平和主義、国民主権、基本的人権の尊重）と国内政治（国会、内閣、裁判所）、国際政治（ユニセフ、ユネスコなど）を重視しています。憲法の基本条文の内容（第九条など）をまとめましょう。1947年に当時の文部省が中学校1年生用の社会科の教科書として発行した『あたらしい憲法のはなし』などを読んでおくのもよいでしょう。時事問題を答えとして求める出題はありませんが、問題文として最近の新聞記事を用いることがあります。

白百合学園中学校

算数

大問を 5 題出題します。例年どおり単純計算の問題はありません。解答欄に「計算・やり方を書きなさい」とある問題では、考え方や計算過程を記入してください。採点の対象となります。

国語

長文の読解問題は、文学的文章 1 題、説明的文章 1 題の合計 2 題出題します。設問では、本文の内容や登場人物の心情をまとめるなどの記述問題があります。その際、80～100 字程度の字数制限がある場合もあります。また、漢字の読み書きや語句の意味を問う問題も出題します。記述問題では、誤字や文末表現の間違いによる減点があります。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題します。実験・観察など体験に基づく問題、思考力や書く力を問う問題です。知識を確認する一問一答形式の問題のほか、計算・記述問題を出題します。レベルは標準的です。自分の得意な分野の問題から解き始め、正確に解答していくことが全問攻略のポイントとなります。

社会

地理・歴史・公民から大問を 3～4 題出題します。3 分野のなかでは、地理と歴史の配点がやや高くなっています。重要事項はすべて漢字で解答できるようにしてください。時事問題、短い記述問題も毎年出題しています。記述には部分点があります。基本的な問題ですが、量が多いので速さと正確さが求められます。

玉川聖学院中等部

算数

計算問題・小問は正答率が高いので、ミスをしないように気をつけましょう。また、計算問題で時間を取られないように、リズム良く計算することが大切です。図形の問題は必ず出題します。文章を読み取る力をつけ、過去問を使って練習を積んでおきましょう。途中の過程で部分点はありませので、しっかりと確認する習慣をつけましょう。記述式の問題を2～3題導入します。途中の求め方も採点対象となります。

国語

小説・物語的文章の読解（35点）、説明的・随想的文章や韻文の読解（35点）、言語事項（30点）の3題を出題します。文章読解問題では、読解力・記述力を問う設問を中心としています。「～について説明しなさい。」「～について自分の考えを書きなさい。」「～にあたる一文の初めの5字を抜き出して答えなさい。」などという問いにふさわしい答え方をしてください。また、言語事項では、「ことばのきまり」（主語・述語の関係、ことばの呼応、修飾語、敬語の使い方など）と「漢字の読み書き」を必ず出題します。それ以外にも、「慣用句」「四字熟語」「類義語」「対義語」「同音・同訓異義語」「漢字の部首名」「文学史」などを学習しておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からの大問を計4題（各25点前後）出題します。分野ごとに、過去に多く出題されている問題をつかみ、特に力を入れて学習するとよいと思います。実験の意味や現象の説明を理解しているかどうかを問う問題、図やグラフを読み取る力、自分で書く力、計算力などを問う問題をバランス良く出題します。計算は難しそうに見えても、やってみると簡単なはずなので、あきらめないことが大切です。

社会

小学校での学習内容をもとに、基本的な社会科の知識・理解を問う問題を出題します。地理的分野は、日本とかかわりの強い国（教科書に掲載されている国のみ）についてと、気候や海流などの自然地理、また日本の主な産業について問います。歴史的分野は、歴史の大きな流れと歴史用語を正確に理解しているかを問います。公民的分野は、日本国憲法の特色、政治の仕組み、国連の働きを問います。そのほかに、統計資料を読み取る問題、また地理・歴史・公民の総合問題も出題しています。

田園調布学園中等部

算数

基本的な問題と、思考力・表現力を重視する問題をバランス良く出題します。また、式や考え方を書く問題を配点の4分の1程度出題します。途中経過については式でも図でもかまいません。書かれた解答を見て部分点をつけています。計算力、割合や比を利用する力、数量の変化を図やグラフから読み取る力、図形の性質を面積・体積に利用する力などを問う問題を中心に出題します。

国語

2019年度は、小説・随筆・説明的文章から2題を出題します。2題とも読解を中心とし、思考力・表現力を問う設問を含みます。文章題のなかで、記述問題、選択式の問題、漢字の問題、語句の問題などを問います。記述問題で字数指定がない場合、解答用紙1行当たり20字くらいを想定しています。採点に際しては、必要な要素ごとに加点をします。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から原則4題出題します。配点もほぼ均等です。小学校の理科の授業で扱う内容や身近な自然現象を題材に、知識だけでなく思考力を問う標準レベルの問題になるよう心がけています。観察や実験の過程を理解し、得られた結果について正しく考察する力、自分の考えを文章や図を使って表現する力を求めています。記述問題を中心として一部の問題では、配点が3～4点となる問題を出題し、きめ細かく採点したいと考えています。

社会

本校の社会の問題は、テーマを設定し、地理・歴史・公民の各分野からアプローチする総合問題です。リード文内の空欄補充や下線部を引いた部分から出題します。設問は、小学校で学ぶ内容を踏まえたもので、難度の変更はありません。2019年度も、受験生の学力を多様な観点で評価できるように、記述式の問題やグラフ・統計の読み取り問題など、思考力や表現力を測る問題を入れる予定です。

東京純心女子中学校

算数

塾のテキストや市販の問題集できちんと準備していれば、確実に得点できる問題が 6~7 割を占めています。割合や比の問題、図形の面積・体積を求める問題は毎年出題します。やや面倒な計算の問題もあるので、最後まで計算して答えを出す習慣をつけてください。教科書では扱わないような新傾向の問題も 1 題出題します。受験生の「気づき」に期待しています。問題は易しい順に並んでいるので、解けるものからどんどん解いていきましょう。

国語

文学的文章と説明的文章が各 1 題です。文学的文章は登場人物の心理や状況の把握、筆者の思いを読み取る問題が主で、文章表現上の特色や比喻表現の意味を問う問題も出題します。説明的文章に関しては、筆者の論理展開を正確に追う力があるかどうかを問う設問が主で、理由説明・内容把握の問題や、文と文、段落と段落の関係を問う接続詞の問題などを出題します。まとめる力を見るための語句の問題や、要点を大きくつかむ問題もあります。記述問題は全体で 5 問程度、50 字前後です。

理科

①実験や観察の計画をどのように立てて調べたらよいか、②学習して得た知識をどれくらい応用(活用)して考えることができるか、③身近な自然現象や日ごろのニュースに興味・関心をどれくらい持っているか、以上の三つを測ることのできる問題を出題します。「生物と環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野も毎回出題し、選択問題や正誤問題のほか、現象などについて自分のことばで説明する問題などもあります。

社会

毎年 2~3 題の構成で、3 分野と時事問題から均等に出題するよう心がけています。近年は選択肢から選ぶ設問が多くなっていますが、記述の対策もしっかりと行うこと。文章や資料を読んだうえで解答を求める問題が多いので、日ごろからしっかりと練習しておきましょう。

東京女学館中学校

算数

〈出題のポイント〉

「計算・図形、文章題などの基礎学力」と「いくつかの内容が融合された問題を解く問題解決能力」の有無を確認します。問題は計算問題が4問、小問が5問前後、大問が5題となっており、図形に関する問題は必ず出題しています。また、円周率は3.14を使って計算します。基本的な考え方を確認する問題が中心ですが、やや難しい問題もあります。

〈学校からのアドバイス〉

当日の試験では時間配分に気をつけ、あまり余裕がないときは、新しい問題に手をつけるのではなく、すでに解いた問題の見直しをすることをお勧めします。また、問題の配列は、必ずしも難度順ではありません。自分の解きやすい問題から解くことをお勧めします。

国語

〈出題のポイント〉

①文章内容の正確な読み取りができるか、②適切な表現での説明ができるか（理解したことを的確にまとめ、表現することができるか）、③基礎的な国語知識があるか、を見たいと考えています。このうち①の文章内容の読み取りについては、「内容理解」（文のつながりや筆者の主張・要旨についての的確にとらえることができるか）と、「心情理解」（登場人物の心情を的確に読み取れるか）の2点を見ます。また、③の基礎的な国語知識については、漢字（小学校6年修了程度）の意味を正しく理解し、書くことができるか、ことばのきまりや使い方を正しく理解しているかを見ます。問題は、大問2題（説明的文章と文学的文章を各1題）と、漢字（書き取り）10問から成ります。

〈学校からのアドバイス〉

上記を参考に、文章を正確に読み取ることが心がけてください。制限時間内に相当量の文章を読みこなすスピードも必要です。最後に、誤字や脱字は減点の対象となります。一画ずつついでに書き、終わったら必ず見直すことを心に留めて練習しておいてください。

理科

〈出題のポイント〉

「自然や科学的な事象に関する基礎的知識」と「自然観察・実験観察に対する論理的な思考力」を確認します。大問は3～4題で、物理・化学・生物・地学の各分野よりバランスを考えて出題します。

〈学校からのアドバイス〉

理科の基本的な知識をきちんと身につけることが大切です。適語を書いたり記号を選んだりする問題のほかに、文章記述や図・グラフの作成、計算問題があります。過去の問題を参考にして、正確に計算したり、簡潔な文章を書いたりするように練習をしてください。知識を丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを日ごろから考える習慣をつけましょう。初見の問題でも、問題をよく読んで考えれば解けるはずです。

社会

〈出題のポイント〉

本校の社会科では、授業や体験学習を通して社会問題への関心を高め、社会的認識を深めるとともに、問題解決能力の育成をめざす学習を推進しようとしています。そこで、入学試験においては、①教科書レベルの基本的な事項をきちんと理解しているか、②それらの基本的な事項を利用して、社会的な問題を総合的に考える力をどれだけ身につけているか、③ふだんから世の中の出来事に関心を持っているか、の3点を見ます。それに沿って、地理的分野では「日本と世界の地理に関する基本的知識と地図やグラフの読み取り能力」を、歴史的分野では「日本の歴史の流れと各時代の特色の基本的な理解」を、公民的分野では「日本国憲法と政治の仕組み、国際関係などの基本的な理解」を確認します。

〈学校からのアドバイス〉

地理・歴史・公民分野の総合問題にも対応できるようにしておきましょう。また、ふだんからニュースや新聞などを見て、時事問題にも関心を持っておきましょう。

東洋英和女学院中学部

算数

基本計算約 10%、小問集約 20%、面積・体積約 20%、グラフ約 15%、そのほかの文章題 35%という比率で出題します。1 枚目は基本問題、2 枚目は応用問題です。解答用紙と問題用紙は一体で、途中経過も見ます。解答欄外の式や計算も書いたままにしておいてください。

国語

毎年、小説・論説文・随筆など、7000～8000 字程度の文章問題を中心として出題しています。詩や短歌・俳句を出題することもあります。文章問題のなかでは、心情を問う問題や、説明的要素・筆者の主張を把握する問題のほか、基本的な漢字の読み書き、語句の意味、文法なども問います。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野すべてから、次のような力を見る出題をします。①理科の基礎知識、②筋道を立てて考える力、③グラフ・表・図などのデータを読み取る力、④説明文を読む読解力。なお、一つの大問に時間をかけ過ぎると、次の大問の基本問題を取りこぼすことにつながるので注意してください。

社会

地理では主に日本の地形・気候・産業を問い、歴史では各時代の特徴と人物・出来事、特に歴史の流れを出題します。公民は日本国憲法、国際社会の基礎知識、時事問題なども問います。地名・人名などの用語は漢字で書いてください。ひらがなで書いたものや誤字は減点する場合があります。

豊島岡女子学園中学校

算数

小問で数えて 18 問を出題予定です。内容・範囲ともに、偏りのない出題を心がけています。計算練習をしっかりとすることが大切です。標準問題に素早く対応する練習をしておくといでしょう。

国語

大問は 2 題で、小説・随筆・評論などから、偏りなく出題します。基本的な漢字やことばの意味も問います。記述問題では問われていることに的確に答えてください。文末処理や誤字に注意しましょう。

理科

大問は 4 題程度で、物理・化学・生物・地学から出題予定です。基本的知識、データの分析、計算、一般常識などを出題する予定です。

社会

大問は 3 題程度で、地理・歴史・公民から偏りなく出題します。時事問題も出題し、20～30 字程度の記述問題を出題することも検討しています。地名・人物名など、漢字で書くべきところは漢字で答えましょう。一見して答えがわからなくても、あきらめず類推して答えてください。

富士見中学校

算数

【大問 1】 確実な計算力などの基本的な学力を見るための問題で、小問は分野に偏りがないうように出題します。

【大問 2】〔A〕と〔B〕の 2 種類の文章問題になります。分量は小問より多く、大問より少ない出題です。

【大問 3・4】 文章を読み取る力、表やグラフを読み取る力、平面や空間を把握する力などの「考える力」を見るための問題を 2 題出題します。単に公式や解法を当てはめれば解ける問題ではなく、その場での想像力や、効率の良い処理方法を工夫することが要求される問題もあります。また、記述部分を含む問題も出題します。

国語

原則として大問 1（論理的文章）、大問 2（文学的文章）の 2 題を出題します。本校の国語において求められている能力・姿勢は次のとおりです。

- ①読解した内容を適切な表現で短い文章にまとめる力。
- ②漢字などの知識を単に暗記するのではなく、その成り立ちや意味が与えられてきた歴史を考え、言語表現に使用する力。
- ③日常生活を通じて、言語に対して鋭い感覚を持ち、美しい日本語の使用を心がける姿勢。
- ④ことばの構造に問題意識を持ち、なぜこのような表現になるのかを探究する姿勢。

理科

物理・化学・生物・地学のそれぞれの分野から 1 題ずつ、4 題の大問を出題します。科学的知識やその理解・応用力だけでなく、探究的な活動に対する力を測りたいと考えています。探究的な活動とは、①疑問を整理し仮説にする、②仮説を証明する実験・観察方法を考え、実行する、③結果を考察し仮説の正誤を判断する、という一連の活動のことです。そのためには、実験装置やその操作の理解、表やグラフを作成し読み取る力、論理的に考察する力が必要になります。

社会

大問 2 題で、いずれも地理・歴史・公民の融合問題です。これは、分野の枠にとらわれず問題を考えてほしいという趣旨によるものです。地図・図表・写真・グラフの読み取り問題は必ず出題します。また、説明を求める記述式の問題も 1 問以上出題します。求められる内容について文章できちんと解答すること、主語・述語をはっきりさせて文章をまとめることが必要です。漢字指定の問題はその旨を明記します。地理的分野では、常に地図を手元に置いて学習してください。また、歴史的分野では、各時代の代表的な人物や事項を関連づけて学習しておきましょう。単なる暗記や一問一答式の学習にとどまらず、「なぜ?」「どうして?」を考える姿勢が必要です。

富士見丘中学校

算数

基本問題を全体の 4～5 割程度出題します。出題分野は例年どおり、分数・小数を含めた四則演算、食塩水の濃度および重さ、整数の商と余り、割合、比、図形の面積・体積、速さ・時間・道のり、平均、場合の数などです。特に思考力型問題は、問題文の内容をしっかりと理解することが大切です。過去の入試問題を参考にすれば、どのような問題傾向があるのかがつかめ、その対策ができると思います。また、問題によっては、途中式で部分点がありますので、解答用紙の計算欄には、式などをしっかり書いておいてください。

国語

大問は説明文と文学的文章（随筆・小説など）の 2 題です。国語的常識（故事成語・ことわざ）も出題することがあります。また、思考力型問題は問題文をもとに考え、表現する力が必要です。加点法ですから必要な内容を自分のことばで表現できる能力を磨いてください。抜き出し問題で誤字があった場合は 0 点ですので気をつけて答えてください。

理科

例年どおり、物理・化学・生物・地学の各分野から基礎知識の定着を見る問題と、環境・自然・生命・化学など科学的事象全般に関する理解や思考力を見る問題を出題します。教科書に載っている図表や、その基となるデータ、科学的事象に関する時事ニュースなどにも、目を向けることが大切です。

社会

地理・歴史・公民・総合の 4 題です。「総合問題」では、今日的視点から話題性に富んだ時事問題を出題しますが、設問レベルは基礎的です。新聞やニュースを日ごろからチェックすることを心がけてください。また、思考力型問題では、問題文や図表を参考にしながら、自分の考えをまとめて表現することが求められます。

英語 ※WILL 入試（2 月 1 日午前）、英語特別入試（1 日午後）、グローバル・アスリート入試（1 日午前、4 日午後）で選択する場合

英検®4 級レベルの問題が 7 割、英検®2 級レベルの問題が 3 割出題されます。設問内容は以下のとおりです。

<英検®4 級レベル>

①基本的な英単語のスペルを書く、②会話文を読み、その状況に応じた返答を英語で書く、③あるトピックについて書かれた英文を読み、内容に関する設問に答える、④英文の空所補充（日本語訳・選択肢あり）

※2 月 1 日実施の英語特別入試のみ、上記①～④に加えて、⑤会話文を読み、その状況に応じた返答を選択する、⑥英文の空所補充（日本語訳なし、選択肢あり）も出題されます。

<英検®2 級レベル>

あるトピックに対して書かれた英文を読み、内容に関する設問に答えたいうえで、トピック

についての自分の意見を英語で論じる。

雙葉中学校

算数

全問記述式です。問題文を正しく読み取り、筋道を立てて考え、答えを導き出す力を見ます。日ごろから途中の式や計算、図などをていねいに書くように心がけるとよいでしょう。

国語

すべての出題を通じて、読解力や語彙力、表現力などを見ます。記述式の答えを求める問題もかなりあります。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題し、実験・観察に積極的に参加しているか、与えられた条件から法則を見つけ、応用する力があるかを見ます。そのための題材を教科書以外から取り上げる場合もあります。

社会

時事問題も出題するので、日ごろから家族間で話題に取り上げてください。地理・歴史・公民のどの分野からも出題しますが、教科書の本文に添えられている地図・グラフ・写真から読み取れる事柄も、本文と絡めて理解しておくといよいでしょう。

普連土学園中学校

算数

<1日午前4科・4日午前4科>

定型的なパターン問題だけでなく、基本からきちんと考える力があるかを試す問題を出題しています。計算問題、定型問題に続き、会話形式の問題を1題出題します。会話形式の問題とは、途中でヒントとなるいくつかの小問を置き、それを利用して次の問題を考えていくストーリー性のある問題です。途中過程にも配点しているので、途中式などの解答に至るまでの考え方を解答用紙に記すようにしましょう。

<1日午後算数>

50問×2点=100点の問題構成で、いわゆる一行文章題と計算問題のみの出題となります。問題の難度は標準レベルが中心ですが、試験時間が50分なので、速く正確に問題を解くことが必要です。ほかの入試回と異なり、解答用紙には途中式を書く欄がなく、解答のみ記すタイプになります。

<2日午後2科>

計算問題の後、1日午前4科・4日午前4科よりやや難度の高い定型問題を複数出題します。採点方法は1日午前4科・4日午前4科と同様なので、2日午後2科も途中式など考え方を解答用紙に記すようにしましょう。

国語

<1日午前4科・4日午前4科>

小説と説明文などの読解を通して、基礎的な国語の力を見ます。小説は登場人物の心情を主題に、説明文は筆者の主張が読み取れるように出題しています。また、漢字は教育漢字を中心に、ことわざ、慣用句、文法などのことばの問題も出題しています。出題形式は記述問題が中心となります。

<2日午後2科>

出題内容は1日午前4科・4日午前4科と同様ですが、出題形式は記述問題が減り、選択問題等が中心となります。

理科

小学校の教科書を中心に、さらに発展した問題について、物理・化学・生物・地学の各分野からほぼ均等に出題します。グラフや表の読み取りが出題されることが多く、文章での解答を求める問題も必ず出題します。

社会

小学校で学習する内容をもとに、さらに発展した事項も含まれます。地理・歴史・公民の各分野からほぼ均等に出題し、時事問題や資料の読み取りが出題されることもあります。また、文章で解答を求める問題も出題するので、語句の意味や歴史的事件の意義を理解することも大切です。

帰国生入試

1日午前の帰国生入試の問題は1日午前4科入試（一般入試）の国語・算数と同一の問題です。また、4日午前の帰国生入試の問題は4日午前4科入試（一般入試）の国語・算数と同一の問題です。

三輪田学園中学校

算数

最初に分数や小数の混じった計算や、四則の順序を確認するための計算問題を3問出題し、次に、さまざまな分野から標準的な内容の問題を5～6問出題します。応用問題では、グラフや表を使った問題や立体・平面図形の問題を3問出題し、途中式を書いてもらいます。問題の意味を正確に読み取る力を持っているかどうかを試されます。2月1日の午後入試も同様の形式・難度で出題します。

国語

7000字以上の長文1題を出題します。漢字の読み書きは15問程度出題します。内容は部分的な読み取りのほかに、全体の内容を問うものもあります。接続詞や副詞などの空所補充問題は頻出です。語句の意味や文法などの知識問題は、原則として本文に即した出題形式になります。対策は漢字学習を大切にすること。8割以上の正解をめざしてください。午後入試においても基本的に¹出題方針は変えません。

理科

4分野からそれぞれ1題以上を出題します。基本的な事項、身の回りの自然現象、観察および実験を中心に²出題する予定です。科学的な事象に関する内容の出題もあります。計算問題と記述問題を毎回出題する予定です。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。基本的知識を問う問題では、都道府県名や人物名などを漢字で答えましょう。地形図や図表・グラフの読み取りや作成もできるようにしてください。また、文章の内容を読み取って答えをまとめるような問題を出すことがありますので、日ごろから文章を読み慣れておくこと。社会の動きもニュースなどで知っておきましょう。

目黒星美学園中学校

算数

型にはまった問題を解く能力を見ることよりも、柔軟な思考力があるかどうかを見ることに重点を置いています。もちろん、基礎的な計算力や知識をしっかりと身につけることも大切です。そのうえで、日ごろから落ち着いて注意深く問題を読み取っていくようにしましょう。また、考えをきちんと整理し、答えを導くことができるように練習しましょう。

国語

これまでの長文問題の文章は、ほとんどが小説・随筆や説明文です。全体から細部を、細部から全体を読み取る練習を積み重ねることも必要となります。解いた問題の本文の内容を短くまとめてみるなど、いろいろと書く習慣を身につけましょう。漢字・四字熟語・慣用句などについての知識問題も多いので、よく学習しておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から、ほぼ同じ割合でまんべんなく出題します。実験・観察から思考させる問題も出題します。教科書に漢字で出ている語句は、漢字で書けるようにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の分野からまんべんなく出題します。時事問題の出題も必ずあります。地理・歴史は標準的な問題を中心に、全体的に出題します。また、地理・歴史・公民の枠を超えた出題もあります。教科書に漢字で出ている語句は、漢字で書けるようにしましょう。

山脇学園中学校

算数

<一般（4科）入試>

基礎的知識と応用力を問う問題を、さまざまな分野からまんべんなく出題します。応用力を問う問題には、数学的な読解力や解法の流れを組み立てて解答する思考力を問うものもあります。問題1は基本レベル、2と3は基本から標準レベル、4と5は標準から応用レベルの問題を出題する予定です。また、問題1と2は答えのみ書いてもらう形式、問題3～5は求め方も書いてもらう形式となっています。求め方を書いてもらうのは、正解までたどり着けなくても、考え方が正しければ加点するためです。ふだんから考え方を式や図、ことばで表現できるように心がけてください。

<算数（1科午後）入試>

偏りないバランスの取れた基礎知識と計算力、問題文からの確に必要な情報を読み取り、解き進める力を問います。20～25問出題するうち、計算問題は3～4問、ほかはすべて文章題・図形問題です。さまざまな分野から出題し、すべて答えのみ問う形式です。

国語

<一般（4科）入試>

文章読解問題の配点が全体の約80%を占めます。長文読解問題では、説明的文章・物語文章を出題します。内容を論理的に読み取る力、文脈に合わせてことばを使い分ける力を身につけてください。知識問題は幅広い分野から出題していますが、なかでも漢字・語句の問題は、毎年一定の割合で出題しています。大問3の総合問題においては、短い説明的文章を読んで自分の考えをまとめる意見論述型の問題を出題します。出題の形式については、過去問題を参考にしてください。

<国語（1科午後）入試>

日本語の運用能力、論理的思考力のベースとなる読解力や表現力を問うために、読解問題を2題出題します。文章を読んで書き手の意図を論理的に読み取る力や、読み取った内容を踏まえて記述をまとめる力を問う問題を出題します。50字～70字程度の長めの記述問題も含みます。漢字の書き取りなどの知識問題は出題しません。

理科

理科の学力バランスをしっかりと見るために、物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。知識問題は、受験勉強をした皆さんの多くが学習してきた頻出事項を中心に据えます。大問は易しい問題から難しい問題の順に配列します。難度の高い問題は、思考力を問う形で出題します。配点に多少傾斜をつけ、後半の大問ほど比重を重くします。理科を学ぶ楽しさを伝え、科学的思考力を育てるような問題にしたいと思っています。

社会

地理・歴史・公民分野からまんべんなく出題します。各分野の基礎知識と、その基礎知識

の活用力を問う内容になります。また、時事問題も公民や地理分野で出題するので、日ごろから新聞やテレビのニュースなどに関心を持つようにしてください。地図やグラフ、表を読み取る問題、1行程度の文で述べる論述式問題も出題します。さまざまな問題形式に慣れておいてください。

立教女学院中学校

算数

計算力・思考力を問う問題を出題しています。計算は、正確かつ速くできるよう練習してください。どうしたら簡単にできるかを常に考えながら練習するとよいでしょう。また、文章題では、何が問われているかを落ち着いて読み取ってください。日ごろから、単なるテクニックではなく、なぜそう解けばよいのか、なぜその式が出てくるのかなど、本当の意味で理解しながら解くことを心がけてください。算数では、真の考える力を求めています。コンパス・三角定規を必要とする問題は出題しません。解答欄は、答えのみを記入するようになっています。転記ミスには注意してください。途中点はありません。

国語

出題する文章の種類は、説明文と物語文の2題です。論理的な読解力と、登場人物の細やかな心情を読み取る力を期待しています。そして、それらを表現する記述力を特に重視しています。漢字の読み方と書き取りは、小学校で学習する1006字からの出題に限定しています。そのほか、慣用句、ことばの意味、基本的な文法事項などの知識を要する問題を出す場合もあります。

理科

単に知識を問うだけではなく、論理的な思考力があるか、科学的な考え方ができているかをみます。必要な情報は問題文中に織り込んでいることも多く、知識量の不足だけで問題が解けないということがないように工夫をしています。理科に関するニュースや身近に起こる現象に興味を持って、「なぜそうなるのか」「このことからわかることは何か」を意識し、小学校で学習した内容と結びつけて考えることで、理解を深めてほしいと思います。

社会

小学校の基礎的な知識を確実に身につけることが大切です。基本的な地名や歴史上の人物名は、小学校の学習漢字でなくても、漢字で読み書きできるようにしてください。一つひとつの知識がつながりを持ったものであることも理解しましょう。社会の出来事に目を向けることも大切ですから、日本と関連する世界のことや、新聞・テレビで話題になったことに関心を持ちましょう。